

---

---

# 第10代横綱雲龍顕彰記念第27回少年相撲大会要項

---

---

## 1 趣 旨

本市出身の第10代横綱「雲龍久吉関」の功績をたたえ、これを顕彰する事業として少年相撲大会を実施し、少年相撲の普及振興、青少年の体力向上、心身の健全育成を図ることを目的に、県内外より広く参加を募り実施する。併せて現大関「琴奨菊」の活躍を期待するものである。

## 2 主 催

第10代横綱雲龍顕彰記念少年相撲大会実行委員会

## 3 後 援（予定）

柳川市・柳川市教育委員会・文部科学省・福岡県・福岡県教育委員会・  
(公財)日本相撲協会・(公財)日本相撲連盟・福岡県相撲連盟・西日本新聞社  
有明新報社

## 4 日 時

平成26年11月3日（祝）文化の日  
午前8時受付　午前8時30分開会

## 5 場 所

福岡県柳川市大和町鷹ノ尾151-2  
雲龍の郷 相撲ドーム

## 6 種 目

- (1) 学年別個人戦（4年生以下・5年生・6年生）
- (2) チーム別団体戦（小学校区単位に1チーム 市内は除く。）

## 7 参加資格

小学生（団体戦は、必ず小学校区単位でチーム編成をしてください。）

---

---

## 日 程

---

---

受 付（８：００）

1 開会式（８：３０）

- ① 開会宣言
- ② 国旗掲揚
- ③ 優勝旗（杯）返還
- ④ 大会会長挨拶
- ⑤ 来賓祝辞
- ⑥ 選手宣誓
- ⑦ 競技上の注意

2 競 技 【 個 人 戦 】

- ① ４年生以下の部
  - ② ５年生の部
  - ③ ６年生の部
- 決勝トーナメント

3 力士模範稽古（参加力士は予定）

佐渡ヶ嶽部屋 佐渡ヶ嶽親方（元関脇・琴ノ若）  
大関琴奨菊、若手力士

4 個人戦成績発表並びに表彰

5 少年横綱雲龍型土俵入り

有明校区子ども会

6 競 技 【 団 体 戦 】

- ① 予選リーグ戦
- ② 決勝トーナメント戦

7 閉会式（１６：００）

- ① 団体戦成績発表並びに表彰
- ② 国旗降納
- ③ 閉会宣言

---

---

## 第10代横綱雲龍顕彰記念少年相撲大会規則

---

---

- 1 責任者と選手は、当日午前8時までに集合のこと。
- 2 競技中は正々堂々と競技し、口はしっかり閉じておくこと。
- 3 競技の始めと終わりには、必ず礼をすること。
- 4 競技が終わったらすぐに休まず軽い運動をすること。
- 5 選手は全員まわしをつけ、裸足で出場すること。
- 6 試合の順序は、4年生以下の部の個人戦から順に行う。
- 7 審判は、審判長、副審判長、主審、副審で行う。
- 8 土俵上の競技は、主審の指示に従うこと。
- 9 禁じ手は絶対に使わないこと。  
禁じ手を用いた場合は、競技を中断させ、審判団協議の上、勝敗又は取り直しを決定する。
- 10 競技中負傷し、競技の進行が不可能となった場合は、審判団協議の上、負傷者の負けとする。
- 11 競技中まわしの前袋が落ちたときは、その者の負けとする。
- 12 勝敗がつかないときは、主審の判断により取り直しとする。
- 13 次の試合との交代は、敏速に行うこと。
- 14 その他の規則については、日本相撲連盟競技規則に準ずる。
- 15 土俵の大きさは、直径4.55mの土俵とする。

☆本大会規則については、選手は勿論応援者全員にも周知徹底させること。

---

---

## 注 意 ・ 周 知 事 項

---

---

### 1 選手・監督

- (1) 選手は、開会式までにまわしを締めて会場に集合のこと。
- (2) 開会式・閉会式の隊形は、本部席に向かってチームごとに背の小さい順で縦1列とする。
- (3) 選手は、土俵に上がる前に必ず準備運動をしておくこと。
- (4) 選手は、土俵に上がるとき、また下りるときは必ず頭を下げきちんと礼をすること。

### 2 審判

- (1) 審判は、審判長、副審判長、主審、副審で行う。
- (2) 競技中のルールは、日本相撲連盟競技規則に準じて行う。
- (3) 選手が禁じ手を使った場合は、審判団で協議し、勝ち負け、又は取り直しを決める。

### 3 その他

- (1) 競技進行は、すべて本部席で行い、監督・選手・審判員はその指示に従うこと。
- (2) ゴミ、弁当がら等は、持ち込んだ人が必ず持ち帰ること。
- (3) 当日のケガについては、申込書に明記していた傷害保険の賠償の範囲において主催者側が責任を持つ。

## 表 彰 一 覧 表

### 【 個 人 の 部 】

### 【 団 体 の 部 】

個人戦	賞	団体戦	賞
優 勝	1 実行委員会 賞状・楯・副賞 2 県知事 賞状 3 日本相撲協会 メダル 4 福岡県相撲連盟 賞状 5 琴奨菊賞 賞状・賞品	優 勝	1 実行委員会 賞状・優勝旗・副賞 ※優勝旗は翌年返納 2 文部科学大臣 賞状・カップ ※カップは翌年返納 3 県知事 賞状 4 日本相撲協会 楯・メダル ※楯は翌年返納 5 福岡県相撲連盟 賞状 6 琴奨菊賞 賞状・賞品
準優勝	1 実行委員会 賞状・副賞 2 日本相撲協会 メダル 3 福岡県相撲連盟 賞状	準優勝	1 実行委員会 賞状・副賞 2 日本相撲協会 楯・メダル ※楯は翌年返納 3 福岡県相撲連盟 賞状
3 位	1 実行委員会 賞状・副賞 2 日本相撲協会 メダル 3 福岡県相撲連盟 賞状	3 位	1 実行委員会 賞状・副賞 2 日本相撲協会 楯・メダル ※楯は翌年返納 3 福岡県相撲連盟 賞状

## 第10代横綱 雲龍 久吉

《幕内成績》 127勝32敗、分け預かり20 勝率79.9%  
《優勝回数》 7回（全勝優勝2回）  
《横綱在位》 5年8場所  
《功績》 手数入り「雲龍型」の創始者

雲龍久吉は、文政5年、福岡県柳川市大和町皿垣開甲木（旧皿垣村字甲木）で塩塚久平治の長男として生まれた。

幼くして両親を失った久吉少年は、3人の弟の面倒をみなければならず、毎日朝早くから田畑の仕事をした。幸いにしてたくましい体に恵まれていたため、村人たちから田畑の仕事や馬の世話などの仕事をもらい、その賃金で一家4人の生計を立てたという。その仕事ぶりは大人以上だったとか・・・。

また久吉少年は大変な力もちであったという。大人5・6人がかかってもなかなか動かなかった石を、一人でやすやすと運んだ話や、矢部川から3里の道を大石2個《120斤(72kg)・180斤(108kg)》をてんびん棒でかついできた話はあまりにも有名。この2個の石は「雲龍の力石」として、今も甲木地内にある海童神社境内に祀られている。

第10代横綱・雲龍久吉略歴

本名	塩塚 久吉
出身	柳川市大和町皿垣開
出生	文政5年(1822年)
身長	5尺9寸(1m79cm)
体重	36貫(135kg)
初土俵	弘化3年(1846年)25歳
初入幕	嘉永5年(1852年)31歳
小結	嘉永7年(1854年)33歳
関脇	安政3年(1856年)35歳
大関	安政5年(1858年)37歳
横綱	文久元年(1861年)40歳
引退	慶応元年(1865年)44歳
逝去	明治24年(1890年)69歳

## 歴 代 横 綱 一 覧

代数	力士名	代数	力士名	代数	力士名
1	明石 志賀之助	25	西ノ海嘉次郎②	49	栃ノ海 晃嘉
2	綾川 五郎次	26	大錦 卯一郎	50	佐田の山 晋松
3	丸山権太左衛門	27	栃木山 守也	51	玉の海 正洋
4	谷風 梶之助	28	大錦 大五郎	52	北の富士 勝昭
5	小野川 喜三郎	29	宮城山 福松	53	琴櫻 傑将
6	阿武松 緑之助	30	西ノ海嘉次郎③	54	輪島 大士
7	稲妻 雷五郎	31	常ノ花 寛市	55	北の湖 敏満
8	不知火諾右衛門	32	玉錦 三右衛門	56	若乃花 幹士②
9	秀ノ山 雷五郎	33	武蔵山 武	57	三重ノ海 剛司
10	雲龍 久吉	34	男女ノ川 登三	58	千代の富士 貢
11	不知火光右衛門	35	双葉山 定次	59	隆の里 俊英
12	陣幕 久五郎	36	羽黒山 政司	60	双羽黒 光司
13	鬼面山 谷五郎	37	安藝ノ海 節男	61	北勝海 信芳
14	境川 浪右衛門	38	照国 万歳	62	大乃国 康
15	梅ヶ谷藤太郎①	39	前田山 英五郎	63	旭富士 正也
16	西ノ海嘉治郎①	40	東富士 鉄壺	64	曙 太郎
17	小錦 八十吉	41	千代の山 雅信	65	貴乃花 光司
18	大砲 万右衛門	42	鏡里 喜代治	66	若乃花 勝
19	常陸山谷右衛門	43	吉葉山 潤之輔	67	武蔵丸 光洋
20	梅ヶ谷藤太郎②	44	栃錦 清隆	68	朝青龍 明德
21	若島 権四郎	45	若乃花 幹士①	69	白鵬 翔
22	太刀山峰右衛門	46	朝潮 太郎	70	日馬富士 公平
23	大木戸森右衛門	47	柏戸 剛	71	鶴竜 力三郎
24	鳳谷 五郎	48	大鵬 幸喜		